Life & Work

わたしの天職

安全に航行する船の設計を

幸利昌さん（42）
長崎教会

デザインワーク デジマ
〒850-0862
長崎県長崎市出島町 2-11
出島交流会館９階
https://dw-dejima.com/

鎖国時代に海外との窓口として栄えた長崎港。その海辺に建つ出島交流会館に、幸利昌さんが興した船舶設計会社「デザインワーク デジマ」がある。幸さんは事務所で日々、二台のモニターに向き合い、パソコンの専用ソフトで設計図を描く。「自分が引いた図面が形となって世に誕生するのが、この仕事の喜び」と頬を緩める。

工業高校を卒業後、「大きなものを生み出したい」と船の設計会社に就職。船の安全性に直結する船殻構造（船の骨格や外観）の設計士として造船会社に出向き、官公庁船やコンテナ船、客船などの造船に携わってきた。三百メートル級の大型船も担当し、業界の最前線で腕を磨いてきたのだ。五年前に独立を決意し、一層の精進を重ねて、昨年三月、夢をかなえた。

「海に囲まれている日本では、船が人々の暮らしや産業を支える重要な役割を担っています。海外との競争で日本の造船業界は厳しく、設計士も不足している現状なので、さまざまな仕事を受けて、人づくりにも尽くし、もっとこの業界に貢献していきたい」

新たな船出から、まもなく一年。現在は、かつて共に仕事をした人を介して依頼を受け、官公庁船と大型タンカーを設計する。幸さんが常に心がけるのは、発注者との丁寧なコミュニケーション。特に相手の言葉の奥にある思いを感じ取れるように意識している。その上で、これまで培った知識や経験をフル活用して最善の設計をすることにより、その船に関わる皆が笑顔になると信じているからだ。

信仰三代目として、幼いときから立正佼成会長崎教会で学んできた「感謝の心を忘れず、縁を大事に」が、人生のモットーだという。自分を律し、日夜、心を整えることも怠らない。人当たりの良さは、元の職場で評判だった。

依頼の多くが官公庁の特殊な船のため、自ら手がけた船に乗ったこともなければ、完成した船を見ることもほとんどない。そのため設計した船の一般公開があると現地に駆けつけ、細部まで食い入るように見て回る。「いつか自分が手がけた船に乗りたいですね」。安全に航行して人々の暮らしを支える船の設計に、幸さんは今日も全力を注ぐ。

＊立正佼成会経営者サンガネットワーク「六花の会」
https://rikkanokai.jp/community/
１月１日から上記ウェブサイトでもこの記事がご覧になれます。